

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 昭和小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	50人	算数	50人	理科	50人
第5学年	国語	52人	算数	52人	理科	52人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

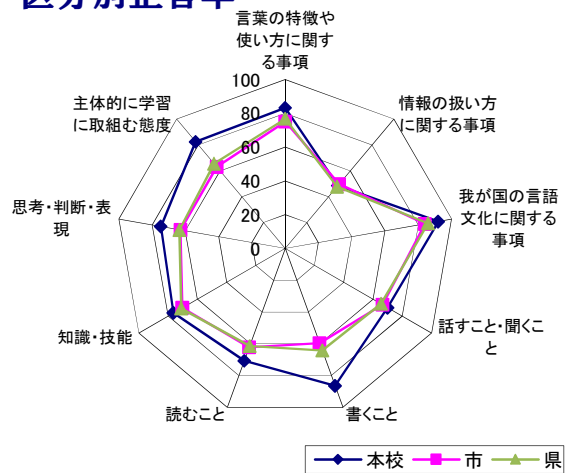
(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立昭和小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	83.2	75.1	76.7
	情報の扱い方にに関する事項	48.7	49.6	47.8
	我が国の言語文化にに関する事項	92.0	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	70.0	66.5	65.5
	書くこと	86.5	59.6	64.2
	読むこと	70.7	62.2	61.5
観点	知識・技能	76.4	70.2	71.1
	思考・判断・表現	74.7	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	82.4	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

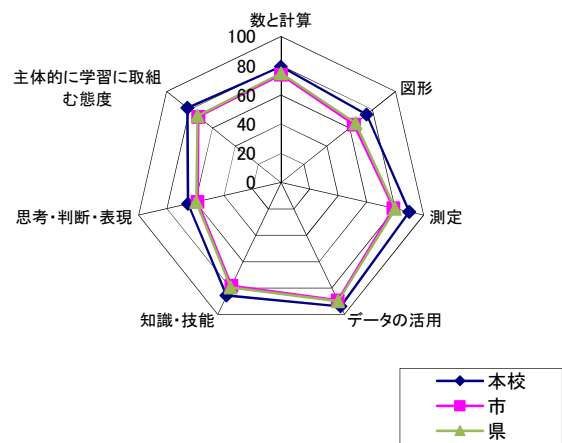
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○平均正答率は83.2%で、市の平均を上回っている。 ○漢字の読み・書きについては、市の正答率をやや上回っているものが見られた。これまでの学習を通して定着が図れたと考えられる。 ●漢字の書き問題は正答率が低い。	・漢字の読み書きについては、毎日のリズムとして取り組めるように、学習習慣を付けていく。 ・日頃から、文章を書くときには既習漢字を使うように声掛けをする。
情報の扱い方にに関する事項	●平均正答率が48.7%で、市の平均をやや下回っている。 ●情報と情報との関係について理解し、話し手が伝えたいことの中心を捉える問題について、県の平均を下回っている。	・文章の中の大事なところや文を見つけて線を引く活動などを取り入れることで、文章の中心を捉えられるようにする。 ・意味の分からない言葉を確認する時間を設け、辞書に触れる時間を作る。
我が国の言語文化にに関する事項	○漢字のへんやつくりをよく理解している。平均正答率は92.0%と高い。	・普段の生活から、既習の漢字を使うように指導し、確実な定着を図っていく。また、前学年の漢字の復習にも力を入れて指導していく。 ・新出漢字の学習では、漢字の成り立ちや構成にも触れ、児童の関心を高め、学習に取り組めるようにする。
話すこと・聞くこと	○平均正答率が70.0%で、市の平均をやや上回っている。 ○話し合いの内容を聞き取る問題については、正答率が高い。 ○互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめる問題では、正答率が高い。	・国語の授業や他教科、学級活動などにおいて、児童が既習事項を活用できるよう、教師側が意識的に指導することで、自分の考えを伝える力を高める。 ・理由や根拠を挙げて自分の意見を述べる指導を継続する。
書くこと	○平均正答率が86.5%で、市の平均を大きく上回っている。 ○段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことができる。 ○自分の考えや理由を明確にして文章を書くことができる。	・意見文の型を踏まえて短時間で書く練習をするなどして、書く力の定着を図る。 ・どのような力を身に付けさせるか、学習の目標を明確化し、「書くこと」で学習したことを、各教科の中で横断的に使えるようにしていく。
読むこと	○平均正答率が70.7%で、市の平均を上回っている。 ○叙述を基に段落・文章の内容を捉える問題では正答率が高い。 ●文章を読んで感じたことや分かったことを共有する問題では、正答率が低い。	・書かれていることを正確に読み取るために、指示語や段落どうしのつながりを捉えながら、読解する力を高めていく。国語の学習は単元で完結するのではなく、年間を通して活用し、また他教科においても既習事項の活用、文章の構造を意識させながら、読む力の向上を目指していきたい。 ・読書を奨励し、いろいろなジャンルの本に親しむ場を設ける。

宇都宮市立昭和小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	79.4	73.8	74.8
	図形	74.8	63.7	65.3
	測定	90.0	78.9	80.1
	データの活用	94.0	89.3	90.0
観点	知識・技能	85.7	78.3	79.5
	思考・判断・表現	65.4	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	82.0	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

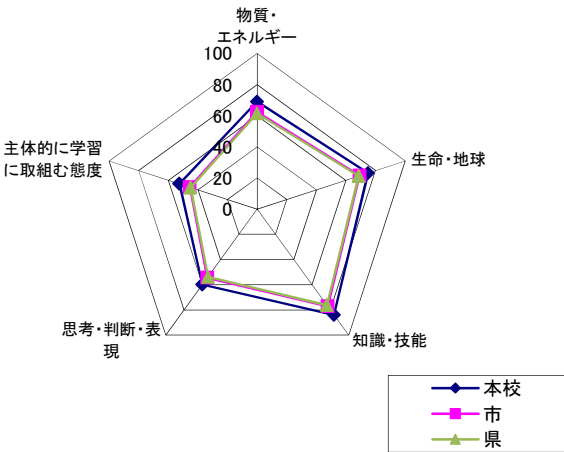
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は78.2%で、市の平均を4.7ポイント上回っている。 ○小数のしくみや相対的な大きさについては、正答率が98%、96%と高く、どちらも県の平均を約10ポイント上回っており、学習内容が身に付いていると言える。 ○同分母の真分数同士の計算では、正答率が100%と学習内容がよく身に付いていると言える。 ●分子が1の分数の問題では、正答率が52%と県の平均を5.2ポイント下回っている。	・計算力に個人差が見られるので、四則演算など算数の基礎基本となる力は、少人数学習など学習形態を工夫しながら指導していく。 ・スキルやAIDリル等を活用して繰り返し復習するとともに、正解を意識した取り組みや間違った問題の分析を自分で行う活動を取り入れることで、さらに習熟を目指していく。 ・分数については、仕組みがよくわかるように数直線や図などを用いて、視覚に理解を促すことで定着を図る。
図形	○平均正答率は74.8%で、市の平均を5.6ポイント上回っている。 ○箱に入っているボールの半径を求める問題では、正答率が82%と、県の平均を約18ポイント上回っている。 ●二等辺三角形になる理由を説明する問題では、県の平均を上回っているが、正答率が16%と低くなっている。	・円と球、三角形については、半径や直径など、基礎的な用語や意味をおさえ、プリントやドリルを活用して復習する機会を積極的に設ける。また、日常生活場面において、確認したり活用したりする場を設け、数学的な思考力を育むようにする。 ・自分の考えを言葉で表現できるように、普段の授業においてペア学習やグループワークなどを取り入れ、言語表現を行う場を意図的に設けていく。
測定	○平均正答率は90%で、市の平均を11.1ポイント上回っている。 ○時間を求める問題では、正答率が94%と市の平均を約17ポイント上回っている。 ○はかりの目盛りの読み方の問題では、正答率が94%と市の平均を7.5ポイント上回っている。	・日常生活の中で、時刻と時間の概念を十分に身に付けられるように、今後も意図的に声掛けをするとともに、時間の単位換算の問題を繰り返し行うなどして、習熟を図る。 ・重さや長さの問題でも同じように、日常生活の中で体感したり、予想したりする場を設ける。
データの活用	○平均正答率は94%で、市の平均を4.7ポイント上回っている。 ○棒グラフの1目盛りの大きさを求める問題では、正答率が94%と高く、学習内容がよく身に付いている。 ○棒グラフを比較する問題では、正答率が94%で、県の平均を4.2ポイント上回っている。	・グラフの目盛りの読み方などについては、更なる定着を図るため、他教科とも連携し、データに合ったグラフを選び、活用する力を高めていく。 ・いろいろなグラフから考えられることを読み取り、意見交換する場を設ける。

宇都宮市立昭和小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	69.1	62.5	61.5
	生命・地球	74.9	69.2	68.6
観点	知識・技能	84.0	77.2	76.3
	思考・判断・表現	60.0	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	52.5	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○平均正答率は69.1%で、市の平均正答率を6.6ポイント上回っている。 ●「物の重さ」での発展的な問題については、県の平均正答率は超えているものの、26%の正答率となり、学んだ知識を生かして、応用したり推測したりする力が不十分である。	・理科で学習したことを根拠に、生活の中の事象を科学的に説明する学習活動を意識して取り入れる。 ・日常生活の事象と既習事項を関連させる学習活動を十分に行う。 ・発展的な問題に取り組むよう活動を多く取り入れることで、学習したことを応用する力を育てる。
生命・地球	○平均正答率は、市の平均を5.7ポイント上回っている。 ●虫眼鏡の使い方の正答率が46%で、使用技能の定着が十分ではない。 ●記録カードなどの内容をもとに、共通点や差異点を見い出す力が不十分である。	・道具の使用技能を知識として定着できるようにするために、言葉でまとめる活動を多く取り入れるようにする。 ・共通点や差異点について考えるようにするため、観察の後の振り返り活動や、着目した点に即して仲間分けをするなどの活動を意識的に行っていく。 ・既習事項を日常生活の事象と関連させて考える時間を設けることにより、学習内容の理解がより深まるようにする。

宇都宮市立昭和小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」の肯定的回答が94%と高く、市の平均より6ポイント以上上回っている。帰宅したら宿題をやる習慣が身に付いていることが分かる。

○「学校の授業時間以外に、ふだん、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」の回答では、30分以上読書している児童の割合が市の平均を上回っている。また、「1か月に何冊くらい本を読みますか」の質問に対して「11冊以上」と答えた児童の割合が市の平均より高い。読書をすると思えた児童全体の割合も高くなっており、毎日、本に触れる習慣ができていることを感じる。

○「勉強をしていて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「勉強をしていて、不思議だな、なぜだろうと感ずることがある」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の肯定的回答が、すべて市の平均より高く、勉強を「楽しい」「不思議」と感じたことが調べることに繋がっていることがわかる。

○「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定的回答が88%と高く、市の平均より6ポイント以上上回っている。また「クラスは発言しやすい雰囲気である」の肯定回答は県や市の平均より14ポイント以上上回っている。さらに「学級活動の時間に、友達同士で話し合ってクラスの決まりなどを決めていと思う」の肯定的回答は94%と高く、市の平均より、12ポイント上回っている。今後も児童同士の話し合い活動を大切に学習活動や学級づくりを心掛けていきたい。

○「毎日、朝食を食べている」の肯定的回答が94%、「毎日同じくらいの時刻に寝ている」が84%、「早寝、早起きを心がけている」が88%と高い。このようすから児童が落ち着いた規則正しい家庭生活を送っていることが伺える。今後も家庭と連携して、児童のよりよい成長を目指したい。

○「自分は勉強がよくできる方だと思う」の肯定的回答が80%、「自分には、よいところがあると思う」の肯定的回答が94%と高く、市の平均より6～16ポイント以上上回っている。自己肯定感の高さが学力の高さにつながっていると考えられるので、今後もそうなるよう支援していきたい。

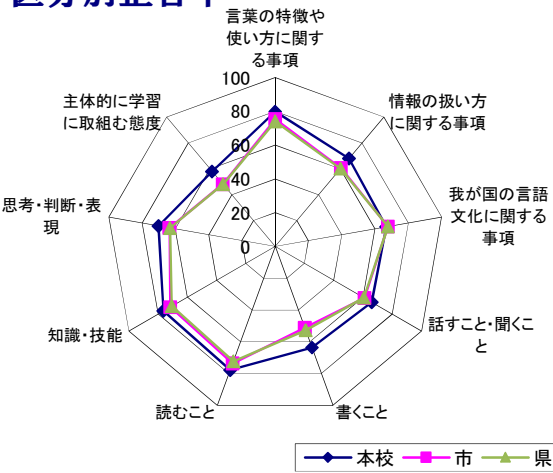
○「自分のよさを人のために生かしたいと思う」「自分がもっている能力を十分に発揮したい」の肯定的回答がどちらも98%と高く、市の平均より9ポイント以上上回っている。自分のためだけでなく、人のためにも生かしたいという気持ちで学習に取り組んでいることがわかり、心の成長も感じることができる。

●「家で、自分で計画を立てて勉強している」「家で、学校の授業の予習をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」の肯定的回答は、いずれも市の平均を下回っている。宿題をやれば十分と感ずているようなので、自分で考えた学習を毎日やるような習慣作りを図ったり、曜日を決めて、自分の学習について振り返ったり目標を考える時間を設けたりして、計画に沿って学習に取り組む姿勢を身に付けるようにしていく。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	79.8	75.4	74.1
	情報の扱い方にに関する事項	68.0	60.5	60.2
	我が国の言語文化にに関する事項	66.7	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	65.9	61.0	60.7
	書くこと	63.7	51.2	52.8
	読むこと	77.8	73.7	72.4
観点	知識・技能	76.3	71.7	70.6
	思考・判断・表現	70.1	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	58.0	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

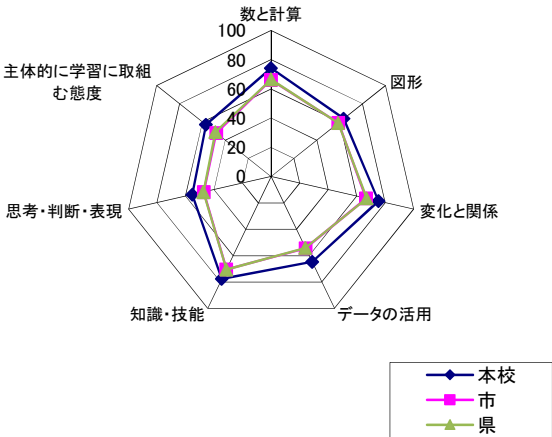
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○平均正答率は79.8%で、市の平均を上回っている。 ○漢字の読み・書きについては、市の正答率をやや上回っているものが見られた。これまでの学習を通して定着が図れたと考えられる。 ○漢字の読みは正答率が100%だった。 ●連用修飾語の問題については正答率が低い。	・漢字の読み書きについて、新出漢字を使った様々な熟語に触れさせる機会を意図的に設定する。 ・こまめに漢字小テストを実施することで、漢字の習得を図る。 ・修飾語の理解・活用については、意図的に学習内容を整理する場面を作ったり、例文づくりに取り組む機会を増やしたりすることで、身に付けられるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	○平均正答率が68.0%で、市の平均を上回っている。 ○漢字辞典の使い方をよく理解している。 ●情報と情報との関係について理解し答える問題では、正答率が低い。	・資料を活用して自分の考えを伝える学習では、図表やグラフから読み取ったことがどう文章に表されているか、線を引くなどして、意識して読むようにする。 ・資料を活用して報告する文を書く際には、グラフや表から読み取る力や伝えたい内容に合った資料を選ぶ力を育てる。
我が国の言語文化にに関する事項	●平均正答率が66.7%で、市の平均をやや下回っている。	・国語辞典や漢字辞典、ことわざ辞典などを活用し、言葉の意味を十分に理解させ、日記や短文作りなどで実際に使うことで語彙力を増やしていけるように指導していく。
話すこと・聞くこと	○平均正答率が65.9%で、市の平均をやや上回っている。特に、話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える問題の正答率は94.1%と高い。 ●意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめる問題では、正答率が低かった。	・話を聞く際には、自分と話しての考えの共通点や相違点を意識できるよう、聞くときのポイントを知らせたり声かけをしたりする。 ・国語の授業や他教科、学級活動などにおいても、自分の意見を述べる際に、根拠となる情報を挙げる習慣付けをする。
書くこと	○平均正答率が63.7%で、市の平均を12.5ポイント上回っている。 ○指定された長さで文章を書くことや、内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書くことができる。	・朝の学習や授業の時間を使い、意見文の型を踏まえて短時間で書く練習をするなどして、書く力の定着を図る。 ・問いに対して文章で答える答え方の練習を行う。 ・要約する学習を行い、各教科横断的に取り入れることで文章をまとめる力を身に付けていく。
読むこと	○平均正答率が77.8%で、市の平均を上回っている。 ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有する問題の正答率が高い。 ○叙述を基に文章の内容を捉える問題の正答率が高い。	・物語を読む際には、場面の様子、人物の行動や心情など描写を丁寧に捉えて想像をより広げながら読むようにする。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.1	66.1	66.4
	図形	63.6	58.9	58.8
	変化と関係	75.3	66.6	67.0
	データの活用	64.7	54.4	54.2
観点	知識・技能	77.6	70.4	70.6
	思考・判断・表現	55.3	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	57.1	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

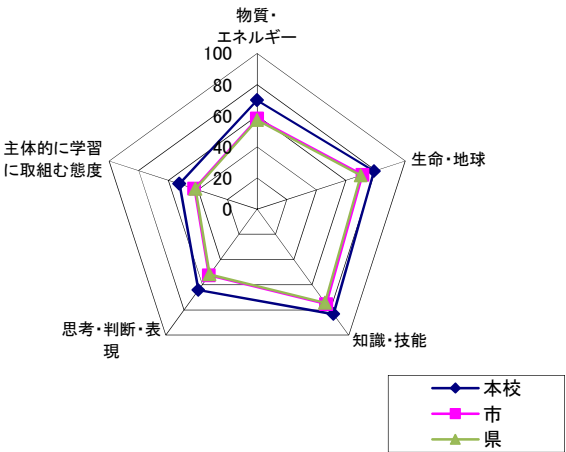
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は74.1%で、市の平均を8.0ポイント上回っている。 ○千の位までのがい数にする問題では正答率が90.2%で、市の平均を12.5ポイント上回っている。また、がい数に対応する数の範囲の問題では、市の平均を17.1ポイント上回るなど、がい数の表し方がよく理解できている。 ●数の相対的な大きさについての設問では、正答率が49.0%で、市の平均よりも下回っている。	・全体としては、学習内容がよく身に付いているといえるが、今後も基礎基本の確実な定着を目指し、計算スキルやAIDリル等を活用し、繰り返し復習する。 ・整数や分数の相対的な大きさや計算の順序、きまりについて、まだ理解が十分でない児童が見られるので、繰り返し復習したり、習熟度別学習などの学習形態を工夫し、個に対応した学習活動をしたりして、更なる定着を図る。
図形	○平均正答率は63.6%で、市の平均を4.7ポイント、県の平均を4.8ポイント上回っている。 ○複合図形の面積を求める問題の正答率は88.2%で、県の平均を13.5ポイント上回るなど、知識を活用し、式と図を対応させる力が身に付いてきている。 ●面積の単位の関係を説明する問題では、正答率が23.5%と県の平均を4.2ポイント上回ったものの、この領域の中では理解が十分でない。	・計算スキルやAIDリル等を活用し、図形の性質や面積を求める問題について復習の機会を設け、より一層の習熟を図る。 ・面積の単位(m^2 , cm^2 , a, ha)の関係や換算の仕方について繰り返し復習する機会を設けるとともに、普段の授業や日常生活場面においても確認したり活用したりする機会を意図的につくるなど、身近なものの面積や広さの量感を着実に身に付けられるようにする。
変化と関係	○平均正答率は75.3%で、市の平均を8.7ポイント上回っている。 ○もとの大きさの何倍になったかを比較する問題では、市の平均を10.2ポイント上回った。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題では、平均正答率が60.8と市の平均を9.1ポイント上回ったが、この領域の中では結果が低い。	・学習内容をより定着させるため、AIDリル等を活用して定期的に繰り返し復習する時間をとる。 ・伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題については、スキルやプリントで集中的に復習する。
データの活用	○平均正答率は64.7%で、市の平均を10.5ポイント、県の平均を10.6ポイント上回っている。 ○2つの折れ線グラフから、必要なことを読み取る問題では、県の平均を20.9ポイント上回った。 ●二次元表を読み取り、人数の違いを求める問題では市の平均を上回ったが、正答率としては低い。	・既習内容をしっかり身に付けられるよう、スキルやAIDリルを用いて、定期的に復習の時間を取り、更なる定着を図る。 ・単元の終わりにある活用問題を丁寧に取り上げること、活用問題に対する苦手意識を持たないようにする。 ・授業内で個々に考える場や時間を十分に確保することで、児童が自力で問題を読み解く力を更に育てる。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	69.9	58.1	57.2
	生命・地球	78.9	71.1	70.0
観点	知識・技能	83.4	75.5	74.4
	思考・判断・表現	64.4	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	52.5	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○平均正答率は、市の平均正答率を11.8ポイントと大きく上回っている。 ●直列回路、水のすがたについての理解においては県や市の平均を上回っているが、十分理解しているとは言えない。	・知識の定着を図るために、教科書で扱われている用語を使いながら自分の言葉でまとめをする学習活動を取り入れていく。 ・実験結果から分かったことや考えたことを、自分の言葉で説明する活動を意図的に設ける。
生命・地球	○平均正答率は、市の平均を7.8ポイント上回っている。 ●「月と星」での問題については、県の平均正答率は超えているものの、半月の1日の動きについては23.5%の正答率となり、理解が不十分である。	・実際に見て観察することが難しい場合は、デジタル教材等を活用したり、家庭で観察した結果について確認整理したりし、確実に知識につなげるようにする。 ・理科で学習したことと身近な事象を関連付けたり、話題にしたりして、日常の中でそれらの知識を生かしていけるように働きかける。また、実験で得られた結果を自分の言葉で考察したりまとめたりする活動の時間を十分に確保する。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」の肯定的回答が100%と高く、帰宅したら宿題をやる習慣が身に付いていることがわかる。

○「1か月に、何冊くらい本を読みますか」で5冊以上読んでいる児童の割合が、51%と市の平均よりも5.3ポイント高い。読書への関心が高いことがうかがえる。今後は質的な充実を図っていきたい。

○「勉強をしていて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「勉強をしていて、不思議だな、なぜだろうと感ずることがある」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の肯定的回答がすべて市の平均より高い。不思議だと感ずたことを調べることや、分かるまで調べたいという思いが、勉強をする楽しさ、おもしろさにつながっていると思われる。

○「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」の肯定的回答が90.2%と市の平均よりも4ポイント高く、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定的回答が84.3%と市の平均よりも5.3ポイント高い。さらに、「学級活動の時間に、友達同士で話し合ってクラスのきまりなどを決められていると思う」の肯定的回答が100%と市の平均よりも14.2ポイント高い。今後も児童同士の話し合い活動を効果的に授業に設定した授業の展開を心掛けていきたい。

○「先生は、学習のことについてほめてくれる」の肯定的回答が98.1%と市の平均よりも9.2ポイント高い。引き続き、一人一人に目を向けたきめ細かな指導に努めたい。

○「毎日、朝食を食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「早寝、早起きを心がけている」の項目では、市の平均と同等の肯定的な回答割合である。このことから、落ち着いた家庭生活を送っていることがうかがえる。

●「家で、学校の授業の予習をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」の肯定的回答は、いずれも市の平均を下回っている。宿題以外の学習において、復習の学習例を示したり、予習復習をすることが自分の学習に対して有効であることを実感できるような指導を行い、自ら学ぶ態度の育成に努めたい。

●「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」の肯定的回答が41.1%と市の平均よりも13ポイント低い。また、「むずかしいことでも、失敗をおそれないでしよう戦している」の肯定的回答が58.8%と市の平均よりも14.4ポイント低い。友達と話し合う活動を通して難しい問題に取り組み、達成感を味わえるようにする。

●「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」の肯定的回答が70.6%と市の平均よりも8.9ポイント低い。どの教科においても、授業内で振り返りの時間を十分に確保するよう意識する。

●「しょう来のゆめや目標をもっている」の肯定的回答が80.4%と市の平均よりも8.5ポイント低い。また、「家の人としてしょう来的なことについて話すことがある。」の肯定的回答が53%と市の平均よりも16.3ポイント低い。キャリア教育を通して、自分の将来に夢や希望をもつ児童を育てていきたい。

宇都宮市立昭和小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・児童自ら考え分かりやすく表現できる児童の育成	目的や条件に合った文章を書くために、提示された条件に即した文章を書く場を意図的に設定する。	各教科とも記述問題については、すべてにおいて市や県の平均正答率を上回っている。昨年度の調査の結果課題となった、提示された条件に応じて文章を書く国語の問題では、4年生では86.5%と市の平均を26.9ポイント、5年生では63.7%と市の平均を12.5ポイント、それぞれ市の平均正答率を上回った。一方、算数では、求め方を説明する問題、理科では、データをもとに指定語句を用いて理由を説明する問題で、校内の平均正答率が50%に満たなかった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・2つ以上の情報をもとに、自分の考えをまとめる問題に対する正答率が低い。	自分の考えを伝える際、その根拠となる事項や情報を明確にすることを意識的に指導する。	資料を活用して自分の考えを伝える学習では、自分の伝えたいことに応じた資料を選択したり、目的に応じてグラフや表などを読み取ったりする学習を丁寧に行う。 学習したことをまとめる活動では、学年に応じて、キーワードや条件などを設定して書くようにする活動を取り入れることにより、自分の考えを分かりやすく伝えるスキルを身に付けさせる。